

## 米国の鳥インフルエンザ (AI) について

昨年 12 月 19 日に米国オレゴン州で最初の AI が検出されて、今年の 2 月に 10 例目が検出されるまでは、検出された範囲はオレゴン州からカリフォルニア州にかけての太平洋地域でした。その後 3 月に第 11 例目がミネソタ州の七面鳥農場で検出され、ミズーリー、アーカンサス、カンサス州という中西部にも飛び火したのですが、主に七面鳥農場への感染でした。4 月になってからはミネソタ州の七面鳥農場での検出が続発しました。4 月だけで同州の 74 の七面鳥農場から AI 感染報告がなされ 404 万羽が殺処分されました。4 月 20 日に第 56 例目として、アイオワ州のオスセオラ郡の 530 万羽の大規模採卵鶏農場での検出が公表された時には、全米の採卵鶏業者に少なからずショックを与えました。(その後正確な殺処分は 380 万羽と発表されました。) 4 月下旬からはミネソタ州の七面鳥農場に代わって、**アイオワ州の採卵鶏農場**での AI 検出が続発しており、4/20~5/21 までに **28 農場、約 26 百万羽の殺処分**が公表されています。大規模農場としてはレンブラント社の **570 万羽が単一農場での最大被害羽数**となっています。

今回の米国中西部での AI 発生では当初は鶏卵相場への影響もなかったのですが、アイオワ州北西部で頻発してから、鶏卵相場が急騰しております。米国業界ニュースによると、液卵メーカーが原料卵確保に四苦八苦していると伝えられ、ミネソタ州のスーパーでは**パック卵に販売制限**がかかっていると報道されています。また全米製パン協会よりこの際は**原料卵を輸入**すべきである、との意見も出ていることや、一部では**鶏卵製品の輸出禁止論**も出ている様です。殻付卵については今回の AI でアイオワ州をはじめとした州からは輸出ができない状況に加え、価格高騰により米国の殻付卵の輸出は激減するものと思われます。その結果、香港向けの引き合いが当会会員にも来ており、初成約した会員もおります。米国より香港向けの鶏卵輸出は年間約 32 千トンあったと伝えられており、その穴埋めに「日本のたまご」が大いに注目されている様です。

次ページに最近の米国の動向を示す資料を添付しました。

①米国中西部での AI 発生状況地図

詳しくは <https://batchgeo.com/map/2015-avian-influenza-outbreaks>

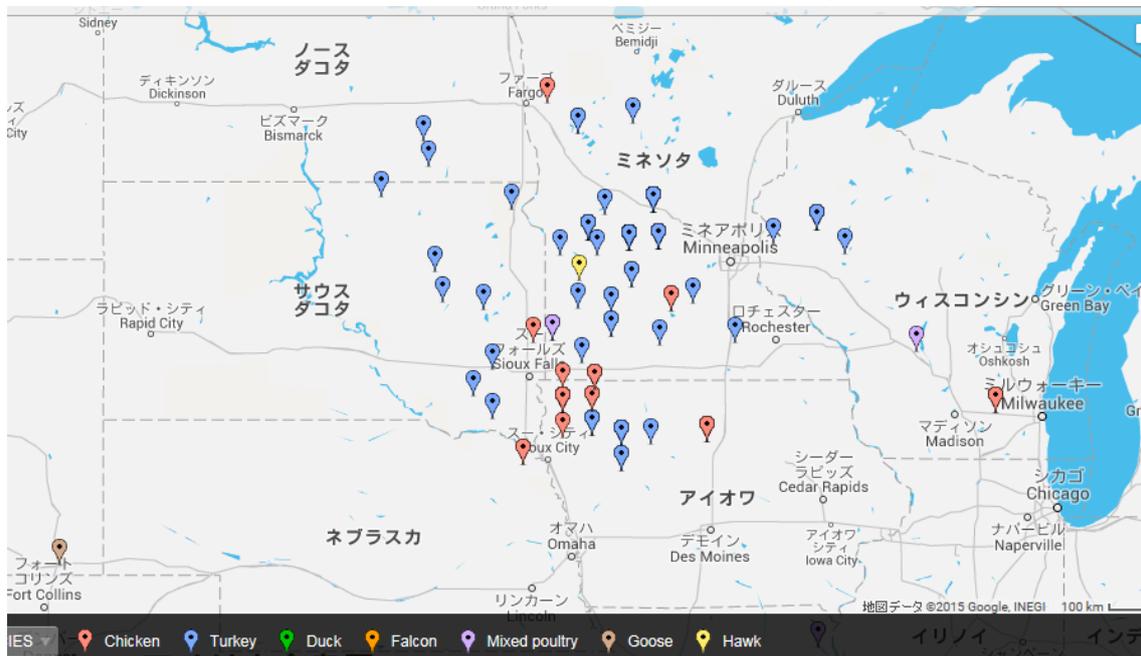
②米国鶏卵相場推移 (アナバリー社調べの相場) 赤線が今年の相場であり、アイオワ州 AI 発生後、急騰しております。

# 日鶏協回覧板

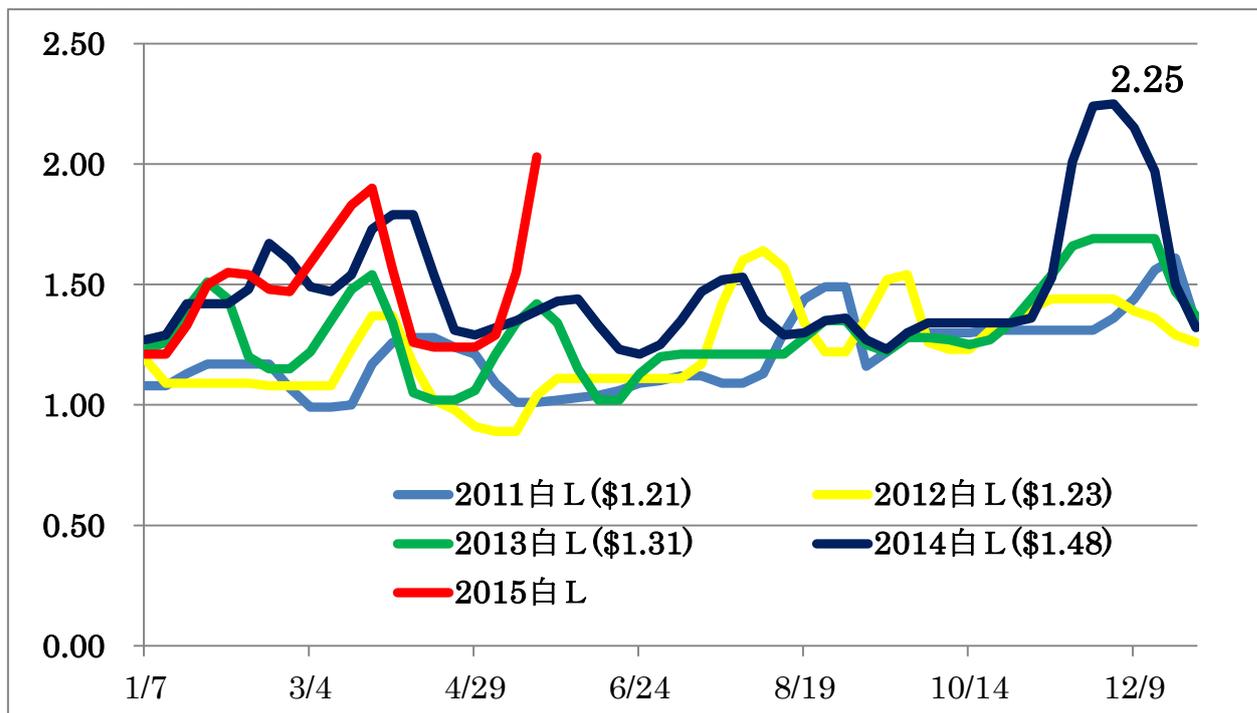
平成 27 年 5 月 27 日

一般社団法人 日本養鶏協会

①米国中西部 AI 発生地図 オレンジ色：鶏 青色：七面鳥



②米国鶏卵相場推移 (L サイズ白玉、ダース当たり、北東部渡し)



【日鶏協回覧板】 発行者：一般社団法人 [日本養鶏協会](#)  
 〒104-0033 東京都中央区新川二丁目6番16号馬事畜産会館内 (5階)  
 TEL : (03) 3297-5515 FAX : (03) 3297-5519 発行日 2015年5月27日  
 編集・発行責任者：島田博 ([fuwatama@jpa.or.jp](mailto:fuwatama@jpa.or.jp))